



## 学校だより

教育目標 自主自律 創造性  
豊かな心 健やかな身体  
校訓 井草魂～自主、不屈の精神、共感・共働の心～

令和 6 年 5 月 27 日

杉並区立井草中学校  
校長 田口 克敏

### 「困コミュニケーション」

校長 田口 克敏

ゴールデンウィークも過ぎ、いよいよ「修学旅行シーズン」が本格化しました。「コロナ禍」も過去のものとなりつつあり、京都や奈良は大勢の観光客により賑わう光景が戻ったようです。京都市役所の「京都情報館」によると、2022 年度（昨年度のデータは未発表）の京都市を訪れた観光客数は「4,361 万人」、宿泊客数は「969 万人」で、そのうち外国人宿泊客数が「57.6 万人」、修学旅行生数はその外数として「74.3 万人」だったそうです。「5 類」への引き下げ前のことを考えると、特に外国人観光客は今やその数倍以上ではないでしょうか（ちなみに、京都市では「京都観光に関する市民意識調査」も実施しており令和 5 年度版がアップされています。中々興味深い数字が出ています）。

さて、日本を訪れる外国人観光客のコメントの中に「日本人ハ親切デス」といったものがよくありますが、このことに関連？して、少し私自身の「恥ずかしい」お話を紹介したいと思います。

9 年前の 2015 年 4 月、パラグアイ共和国にあるアスンシオン日本人学校に赴任するため、他に 4 人の国費派遣教員とその家族とともに成田から「アメリカ・アルゼンチン経由」で出発しました。アメリカまで 12～3 時間、乗り換えに数時間、アルゼンチンまで 10 時間以上、また乗り換えに数時間、それから 2 時間半ほどでようやくパラグアイに到着する長旅でした。その道中で、他の国費派遣教員とその家族には起こらなかったアクシデント？が、私たちに起きました。名付けて「アルゼンチン入出国事件」ともいうべきものでした。当時、管理職と一般教員では飛行機の座席配当が「ビジネス」と「エコノミー」とに分かれていました。太平洋を越えアメリカのダラスフォートワース空港での乗り換えは、全員ほぼ一緒に乗り換えることができました。アメリカでは、乗り換えの際にも一旦入国するような手続きを経なければならず（ESTA という申請をしておき一旦入国手続きをとらなければなりません）、係官より入国スタンプをパスポートに押ししてもらいました。実はこのことが、次の経由地であるブエノスアイレスでは災いすることになります。ダラスを出発しブエノスアイレスの「エセイサ国際空港」に到着後、私たちは飛行機を降り空港内での乗り換えに移りました。このときビジネスクラスの私たちは、他の教員たちよりも先に降りるので、先を歩く乗客の後をついてそのまま進みました。そうしたところやがて「入国審査」を行うようなゲートに並ぶことになり、ダラスでの体験から「乗り換えとはこういうものだろう」と少々不安ではあってもそのまま係官にパスポートを出しスタンプを押されました。後から他の教員たちも来るものと思えばしばらく待ちましたが、一向に来る気配がありません。それもそのはず、他の教員とその家族は「乗り換え用」ゲート案内に従い進んでいました。しかし私は不注意からかそれを見落としたのか、聞き落としたのか覚えていませんが、乗客の流れに従い進んでしまいました。しばらくして「もしかして乗り換えではなく、アルゼンチンに『入国』してしまったのではないか」と思い至り、慌てて近くにいた女性スタッフに不十分な英語で何とか自分たちの「窮状」を身振り手振りも合わせて訴えます。互いに言葉もよく分からないやり取りがしばらく続きましたが、やがて状況から察した女性は「この外国人は、乗り換えと入国を間違えたに違いない」と判断してくれたようでした。彼女の話しぶりから「ここは乗り換えの場所ではなく、お前は入国してしまったから一旦手荷物検査場を抜けて出国手続きをなさい」と相手は言っているのではないかと私も勘を働かせて察し、指示通り一旦空港内のグランドフロアに出ました。無事？アルゼンチンに入国したものの、次の難問はどうやってアルゼンチンを出国するか、でした。乗り換えの時間は限られています。フロアのあちこちにいるアルゼンチン人に尋ねても英語は通じず、私はスペイン語もよく分かっていないため、意思疎通も図れず、このままでは自分達だけブエノスアイレスに取り残されてしまうのではないかと、一緒に来た校長がパラグアイに到着しない、となったら向こう 3 年間きつと語り継がれ続けるに違いない……など様々なことを考え何とかこの「危機」を脱しなければならぬと考えました。何人かのアル

ゼンチン人に聞き、どうやら出国するためにはフロアに設置されている機械を操作しなければならないことが分かり、その機械にチャレンジしました。表示される言葉もよく分からないまま、私は乏しい語彙力や直感を総動員して取組んだ結果、ようやく2人分の出国手続きをすることができました。

出国審査を経て、深い疲労感を覚えながらバラグアイ行きの便のゲートに着くと、そこには他の教員たちがゆったりと乗り換え時間を過ごしていました。私たちが喜劇的な「入出国劇」を繰り広げたことなどは想像だけにせず。その後全員で飛行機に乗り、予定された時間にバラグアイに到着しました。



アルゼンチンでの入出国のスタンプ。右は入国、左は出国のものでいずれも「09 ABR. 2015」(2015年4月9日)とある。

この出来事からの教訓は、困っている人に対して親切や思いやりをもつことは万国共通のものであることだということでした。日本人だけがとりわけ親切な国民というわけではなく、特に旅行者に対しては、どの国の誰もがほとんどそうである、ということとその後の経験からも感じました。もうひとつは、「真剣な思いは言葉を超える」ということでした。ブエノスアイレスでの女性スタッフとのやりとりは、言葉によるコミュニケーションは、ほぼ成立していなかったと思いますが、なぜか互いの意図することは通じ合っていたことを考えると、人間の喜怒哀楽の感情や困り感などは万人に共通したものであるから、言葉の壁を乗り越えて感情は共有できるものだ、と考えます。語学力は確かに身に付けるに越したことはありません。しかし、それが乏しいからと言ってどうにもならないということでもありません。大切なことは伝えよう、分かろうとする「意思」ではないか、と思います。言葉が分かっているにもかかわらずそこに必要な「意思」が欠けていると、同じ日本人同士でも「分かり合えない」ということはありがちです。

「コミュニケーション」ならぬ「困コミュニケーション」は、日本を訪れる外国人にも当てはまるので、そうした場面に出会ったら、あのアルゼンチン女性と同じように“親切に”したいと思います。

## フレンドシップスクール 1年生

『成長あり、反省ありのフレンドシップスクール』

1年FSS担当 主幹教諭 松下 光博

5月16日(木)～17日(金)から茨城県つくば市方面にて宿泊学習を行いました。

実行委員会において、今回のフレンドシップスクールのスローガンは、「おもいで」のあいうえお作文で、「お礼の気持ちを忘れない、**も**っと仲良く、**い**つでも協力、**て**きることを考え実行しよう」と決めました。このスローガンである**おもいで**に残る行事となったでしょうか。特に、有意義な活動であった2つのことについて触れます。

1つめは、田植え体験です。恐る恐る水田に足を踏み入れる生徒もいれば、慣れた手つきで植えていく生徒もいました。社会科で学習した稲作の始まりに思いをはせた生徒もいたことでしょう。

2つめは、飯盒炊飯です。火をおこすことはそこまで難しいことではありません。しかし、火力を安定させるためにうちわを使い、風向きや風量を調整することは試行錯誤の連続でした。飯盒に入れる水の量や給水時間に気を配りながら多くの班が米炊きは成功していました。カレーは、水の量が多すぎる班もありましたが、おかわりもできて満足そうでした。

一方で、気になったこともあります。バス内や宿舎内での声の大きさについて注意を受けることがありました。ダメなことはダメであるという認識を初めからもつことができれば一步成長です。まず、「周りの人がどのように感じるか」を判断する力を身に付けてほしいです。集団生活をしている自覚をもち続けてください。

これからも第1学年の生徒のみなさんが自然と共生し、たくましく成長してくれることを期待しています。

## <フレンドシップスクールの様子>



## 情報モラル教室 1年生・i組

5月11日（土）に、情報モラル教室を実施しました。IT犯罪について理解し、IT機器の正しい使い方を確認するとともに、犯罪に関わらないために気を付けること等について、講師の先生をお招きして話を聞きました。

スマートフォンは便利。皆さんはスマート（賢く）に使っていますか？目先の結果だけでなく、その先をイメージし使う習慣を付けましょう。  
ご家庭でも使い方のルールを決めて便利に、安全に、使って欲しいと思います。



## 井草中の日常紹介 5月の授業

今年度は、先生方がどのような授業を行っているのか、どのような研修を受けているのか等、普段の授業や日常的に取り組んでいることを紹介していきます。  
より井草中学校のことを知ってもらえる機会となればと思います。

### <三宅 輝 主任教諭（保健体育科）>

#### ★3年球技「バスケットボール」★

3年生ではバスケットボールの単元をやっています。2年生の時にも行い、基本的な知識は身に付いているので、3年生ではチームで練習内容を考え、実践（ゲーム）に生かすというような取り組みをしています。身長を生かし、リバウンドの練習をするチームやパス回しに重点を置き、ゲームに生かすチームなどそれぞれの工夫が垣間見られます。

また、3年生はゲームをメインに授業をしているので生徒たちも楽しくプレーしていて、授業終了時はみんな汗だくの状態です。運動は生涯において重要な役割を担っていると思います。そんな運動が楽しく、前向きに行えるように意識して授業を行っています。

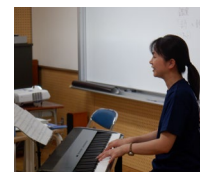


### <辻 香保里 主任教諭（音楽科）>

#### ★3年歌唱「花」★

3年生の歌唱の授業は、滝廉太郎作曲の「花」に取り組みました。

明治時代後半の隅田川の周辺の様子をイメージしたり、1番・2番・3番それぞれの違いを楽譜から探したりして曲の理解を深めました。自分はどのように表現したいか、そのために呼吸や強弱など具体的にどうすれば良いかなどを考えたり、日本語の抑揚や言葉の切れ目など、細かいことも意識したりして歌っています。



## SOSの出し方 3年生

3年生は、今後受験も控えストレスを感じるが多くなるかもしれません。自分や友達の不安や悩みに早く気づき、困った時に適切な援助を求めることができるようにすることを目的に今回は授業を実施しました。



適度なストレスは、ほどよい緊張感と集中力を保ち、自分の力を発揮するために必要なものだけど、対応できないくらいのストレスはよくない。そんなときは、友達や先生など話しやすい人にSOSを出そう。いつも話せる人を3人見付けておくといいよ！



### <6月の行事予定>

日	曜	行事	日	曜	行事
1	土	運動会（弁当持参） 開校記念日	16	日	
2	日		17	月	生徒会朝礼 食育の日
3	月	振替休業日	18	火	期末考査（社、数、保体）
4	火	運動会予備日（弁当持参）	19	水	期末考査（国、理、美）
5	水	5時間目カット	20	木	期末考査（英、技家、音）
6	木		21	金	音楽鑑賞教室（2年） 水泳指導（始）
7	金	危機対応訓練（不審者対応） 専門委員会	22	土	
8	土		23	日	
9	日		24	月	全校朝礼（Teams） 保護者会（2年）
10	月	全校朝礼 安全指導 特定の課題に対する調査（3年）	25	火	第1回進路説明会 保護者会（3年）
11	火	特定の課題に対する調査（2年） 英語「話すこと」全国学力学習状況調査（3年） 定期考査1週間前	26	水	i組学級見学会
12	水	連合移動教室（i組）始	27	木	
13	木		28	金	高校出前授業（3年） 保護者会（1年） 定期健康診断終・体力調査終
14	金	連合移動教室（i組）終	29	土	
15	土		30	日	